

平成29年度 比叡平小学校 学力向上策(9月改訂)

【本校の学力向上にかかわる課題】

(全国学力・学習状況調査等より)

<これまでの取組から>

◎意見交流を中心とした学び合いの授業改善の取組の結果、話す・聞く能力は高まってきている。めあてや課題、ふり返し等を書く、問題解決型のノート指導の徹底に取り組んだことも、その要因の一つである。さらに、学び合いの基盤となる支持的な学級づくりを高めて、授業改善に取り組んでいくことが課題である。

◎基礎基本の徹底と学力向上のため、個別指導として、「だいらっこタイム(5校時前の帯タイム)」「夏休みだいらっこクラブ」「放課後だいらっこタイム」に取り組んでおり成果が上がっている。今後は、全教師が共通理解のもと、学習につまずきの見られる児童に適切に指導できるように、さらに体制を強化していく。

◎「聴き名人」「話し名人」をめあてにし、各教科、道徳、特別活動等を通して、常に意識づけを行っている。さらに人権意識を高めていく中で「認め合い、支え合い、学び合う」学習を重視した授業を充実させる必要がある。

<全国学力・学習状況調査の結果から>

◎国語の正答率が高く、国語の話す・聞く能力が優れていることがわかった。このことから、これまでの「確かな学力」の定着に向けた授業改善の成果が表れていると考えられる。算数の数と計算等の一部の問題について、習熟が必要であることがわかったが、それ以外の問題については相当数の児童ができている。昨年度同様に自尊感情・自己肯定感が低い傾向が見られることから、自信が持てない児童への支援を高めていくことが、本校の大きな課題の一つである。

【本校の「学力」のとらえ方】

(これまでの実践を踏まえ)

「生きる力」



「確かな学力」

基礎基本

問題解決力

〔豊かな心、たくましい体〕



「学びの基礎力」の育成

基礎体験

学びに向かう力

学びを律する力

【指導目標】 (課題へのアプローチ)

1 道徳の時間を中心に全教育活動を通して、相手を思いやる心情を育てていく中で、学び合いの基盤となる支持的な学級づくりに取り組み、「話す・聞く」力の充実を図る。

○学年の発達段階に応じた「目指す子ども像」をもとに、日常的に「聴く力」を育てる取組を考え、実践する。

○「目指す子ども像」をもとに、教師が毎学期に成果と課題をまとめる中で、評価を行う。

2 「話す・聞く」「読む」「書く」における言語活動の充実

○意見交流を中心とした学び合いの場の設定

・話す・聞くことの言語活動を授業に多く取り入れ、話す・聞く能力を育てる。

○読書、音読の指導

・毎朝の読書タイム、詩や標語、百人一首等により言葉に親しませる。

・繰り返し音読する機会を設定し、読む能力を育てる。

○書く作業の日常化

・問題解決型のノート指導を徹底し、めあてや課題、学習のまとめやふりかえりを書かせ、自分の思いや考えを整理させ、思考力を高めるとともに、話す・聞くことの言語活動にもつなげていく。

3 基礎基本の徹底と校内研究を中心にした授業改善

○教科の時間だけでなく「だいらっこタイム」等で、計算や漢字の練習などを繰り返す行う。

○互いに学び合う学習を進め、課題をより良く解決しようとする意欲および資質能力を育てる。

○保幼小中の連携を図る中で言語活動を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。

○法則や公式に行きつくまでの学習過程を大切に授業展開で、論理的な思考力の向上に迫る。

○学習の見通しを持たせながら、課題に迫る資料活用や情報選択の力を育成する。

4 「生活・学習ふり返しカード」「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の定着と充実

○「生活・学習ふり返しカード」を学期に一回行って、家庭生活をふり返し、さらなる定着を図る。

○「家庭学習の手引き」をもとに、2年生から自主学習ノートをつくり、家庭学習の充実を図る。